

# わかしゃち

第10号 2005・5



土佐中・高同窓会・東海支部会報  
編集人/35回生 内田順子

Email junkotosa@k8.dion.ne.jp

〒460-0024 名古屋市中区正木3丁目13-13 コスモホーム 気付

TEL 052-332-3370

FAX 052-332-3372

## 忘れ得ぬ心の友 岡本福三郎君

元名古屋地方検察庁検事正  
二十七回生  
秋田 清夫

土佐中三年になったとき、  
県立中村中から色はやや浅黒  
いが、端正な顔をした男が転  
校してきた。独りぼつんと淋  
しげにしていたので、声をか  
け、以来急速に親しくなっ  
ていった。それが岡本福三郎君  
である。当時高知・幡多間は  
交通不便で、船で行き来する  
ことが多かったようで、彼は、  
船で高知港へ着いたと言っ  
ていた。



左 岡本君

右 筆者(秋田)

清水市電車で

彼の下宿は、上町五丁目の  
鏡川の畔近くであったので、  
私は彼の下宿によく遊びに行  
き、彼もまた、私の朝倉の自  
宅に遊びに来ていた。

彼の長兄は、先の大戦で、  
ビルマのインパールにおいて  
戦死し、次兄は、旧制土佐中  
最後の卒業生(その年の卒業)  
であった。二人の姉さんは、  
結婚しているとのこと、写  
真を見せてくれたが、二人と  
も上品で凄く美人であった。

彼の下宿には、兄姉から引  
き継いだ岩波等の文庫本がた  
くさん置いてあり、私は、こ  
こで初めて文庫本の洗礼を受  
けた。最初に読んだ本は、ア  
ンドレ・ジードの『狭き門』、  
つぎが久米正雄の『学生時代』  
であった。いずれも強烈な印  
象を受けた。

漱石・鴎外・モーパッサン  
・フロアベル等等、片っ端か  
ら読みあさった。

大学一年の夏、誘われて  
下ノ加江の彼の実家へ遊びに  
行った。同じ二十七回生のF  
君も一緒だった。

台風一過、空は澄み渡って

いたが、村の西部を流れる下ノ加江川は豪雨であふれ、濁流が海に流れこんでいた。

私たちは、その川幅二十五メートル位の河口で、無謀にも泳いで向こう側の突堤の先を回つてその前方の砂浜へ行こうとした。その頃私は水泳は得意ではなく、二百メートルくらいが精一杯であつた。

(現在は、週に二回くらい、二千から二千五百メートルを、休まずに難なく泳ぐ)

不安はあつたが、岡本君は水練の達人で、土佐中・高の水泳選手だつたのであり、また三人だという気の緩みもあつて、岡本君らの後に続いて濁流に飛び込んだ。

運悪く干潮時であつたこともあつて、沖へ沖へと流されていった。これに抵抗して突堤の方へ必死で泳いでも、近付くどころか、浜辺は遠くなるばかりであり、ひどく疲れ

ていった。突如、  
「波に乗れ！ 波に乗れ！」  
という岡本君の声が聞こえた。波に逆らうなということだと、はつと我に返つた。

身を波の流れに任せながら、既に遅く、私は疲れに疲れていた。遠く遠く沖へと流され、陸地は霞んで見えた。これがこの世の見納めかと思つた。

なんとという親不孝者か。私は、  
「俺はもう駄目だ！」  
と叫び、沈みかけた。

そのとき、  
「頑張れ！」  
という岡本君の声を聞いた。

しかし、私は、もう沈んでいていた。

突然、私の身体が波上に浮かび上がった。岡本君が潜つて、海中から、自らの身体で私を体ごと支え、突き上げてくれたのであつた。

私の今日あるは、岡本君の大恩によるものである。

なお、F君は、自力で泳ぎ切り、最後の方は、岡本君と共に、私のすぐ傍に付き添つてくれた。

昨年の春の叙勲で、《瑞宝重光賞》を受賞したとき、真

つ先に思い浮かべ、しみじみとありがたい想いに耽つた。

## 母校だより

学校長

二十八回生

池上武雄

各地で桜の開花が報せられる良い季節となりました。

中部国際空港・セントレアの開港に続き、愛・地球博のオープンと中部地区のご繁栄をお祝い申しあげますとともに、東海支部の皆様のご健勝ご活躍を併せてお慶び申し上げます。

さて、本年度の大学入試結果は、国公立大の現役合格者一五名で、本校の目標としている一〇〇名を超える成果をあげました。東大二名中二名、京大九名中七名をはじめ、いわゆる難関十大学（旧帝大七校・東工・一橋・神戸）の合格者三六名中二二名が現役生で難関大でも現役主導の合格状況でした。

私立大では、総数は過年度生の大幅な合格者減もあり一〇〇名ほど少なくなりました

が、現役生は早慶上智で三一名（昨年三二名）、関関同立七五名（昨年七九名）と健闘し、ほぼ昨年通りの結果を収めました。

しかし、東大・一橋・東工の首都難関大に今年は三名（昨年一〇名）と十分な結果を出せなかつたほか、国公立大医学部医学科の合格者は二名（昨年二四名）と減少している点などが反省材料です。ただ二年振りに東大理Ⅲに現役合格者が出たことはうれしい限りです。

次に校舎の改築についてであります。日建設計・現代建築計画事務所JVと校内建築委員会を中心に基本構想・基本設計に向けてこの一年間検討を続けて参りましたが、しかし校長の手続き上の不手際や、投資額過大等から大きく見直しをすることがこの度の臨時理事会で決定されました。

二〇二〇年の百周年に向けて遺漏のないよう充分慎重を期すことを求められたものであり、校内は勿論のこと振興

会・同窓会の皆様方のご協力をいただいて、校舎改築の大事業が今後とも順調に進められるよう万全を期す覚悟でございます。これまで各方面からいろいろと物心両面にわたるご協力とご支援を賜りながら、十分な成果を出せずに至っておりますことをまことに心苦しく心からお詫び申し上げます。

なお校舎改築の見直し案は、本年七月の評議員会・理事会までに再検討を行った上でお諮りする予定です。従いまして建築資金の募金活動も併せて見直しをし、基本設計で改築校舎の概要が図面でご覧いただける段階で、具体的にお願ひいたしたいと考えております。

間もなく新学期が始まり、本年も中学二五〇名、高校三一〇名（うち他中学からは六七名）の新生を迎えます。生徒・教職員ともども全員志高く目標に向かって頑張っており、参りますので、どうか変わらぬご支援のほどよろしくお願ひ申しあげます。

最後になりましたが、同窓会員の皆様のご健勝・ご多幸と東海支部のますますのご発展を祈念申しあげ、ご報告といたします。

（平成十七年 弥生）

## 同窓会あちこち



### 同窓会本部だより

#### 同窓会会計

五十八回生 千頭 裕

今年、インフルエンザの流行、花粉の飛散の多さ

が我が身を苦しめたものでしたが、皆様においてははいかがお過ごしでしょうか。高知県民注目の高知医療センターも三月に開院いたしました。

土佐中・高等学校同窓会には、八十回生同窓会員二九七名が仲間入りをしました。

さて、本年は五年に一度発行している会員名簿作成の年となっておりますが、その奮戦近況等を事務局として、お願ひかたがたご報告させていただきます。

現在、個人情報保護法を強く意識しながら、調査カードの作成やデータの管理等を行っております。一回目の調査として現住所判明者に一四二三五通の発送作業をいたしました。

宛名をプリントアウトするのには、八時間立ちっぱなしでがんばりました。（この作業を行えるまでの時間は？）そして、郵送のための袋詰め作業は、本部役員やその家族等とともに、生徒の保護者の方々にも大変ご協力を頂きま

した。（約十人が一週間）本当に有難く、感謝感謝の毎日でした。そして、ようやく発送。

やった！と思つて三日後から、早速返信ハガキが（調査カード）返つてきはじめました。データの更新作業の開始！（未登録者情報も三〇二通お知らせ頂き感謝感謝です！）

現在、ようやく三〇二九通のデータ入力更新作業を終了しました。

五月頃に予定している二回目調査カード発送の準備や各回の幹事さんに未登録者の情報提供をお願いしたいと思つております。

微力ではございますが（いろいろなお手伝いを六十八回の手島さん（旧姓原村）にも協力して頂いております）、元氣一杯、精一杯、名簿発刊に向けてがんばつていきたいと思つておりますので、何卒、同窓会活動、協力金へのご理解、名簿広告等々、会員の皆様方のご協力のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

## 関西支部だより

関西支部幹事

五十二回生 上田良平

東海支部の皆さん、こんにちは。そして島村昭範先輩、大変ご無沙汰しております。

お元気ですか？ 吹奏楽部の後輩の上田であります。あの頃は本当にお世話になりました。また先輩におかれましては、同窓会活動でも（確か、本紙だったと記憶しておりますが）御寄稿をなされるなど益々御活躍の段、心よりお慶び申し上げます。

さて関西支部では、毎月第二木曜日の十八時より懇親の宴を大阪三井物産ビル四階「季節房」で開催しています。東海支部の皆様も関西方面に出張の際はぜひお立ち寄り下さい。

そんな折、私が新年会に引き続きその集いに出席させていただくようになりまして、だんだんとずうずうしくなり

まして、関西支部の一翼を担っている原田和人氏（五十六回生）に、おおいに先輩風を吹かせて、気分よく講釈をながながと始めていたところ、突然名譽ある『わかしやち』への寄稿を依頼され、一瞬で凍りついてしまいました。しかしながら、それまで偉そうに言っていた手前、冷静を装い、快諾したふりをするのに少してこずつた次第です。

とは申し上げましても、何か新しいことにチャレンジしてみようという気持ちも確かにあり、また故岡村熊長先生が授業中によく

「嫌な顔をせんと、（何でもやりましょう！）じゃろうが」と熱くご指導されていたことを思い出し、拙い文を見ていただく事にさせていただきますました。

この岡村先生のお言葉を最初に耳にしましたのは、新グラでの授業中でした。ソフトボールやサッカーなど人気がある球技の授業が続いていましたので、（今週もそうだろうなあ）と集合したところ、

何とその日はグラウンドの小石ひろいとマラソン。愕然とする私たちに雷が落ちたのは一瞬の後でありました。当時は先生が教えようとされた深い意味を理解することはできなかつたように思われます。しかし、この全方向型積極打撃法は、社会人として、特に営業職をナリワイとしている私にとつて、金科玉条の響を打ちつけているのであります。

そんな関西支部の集まりで話題にあがるのは、やっぱり我が土佐高野球部の話が一番でしょうか。純白のユニフォーム、左胸の校章、そして、言わずと知れた全力疾走。

《我らが誇る白の精鋭たちに栄光あれ》

そして彼らを懸命に応援する超満員のアルプス席の我々OBたち。話はどんどん佳境に入り、夢が現か、関西支部の夜はますます更けていくのであります。

## 香川支部だより

事務局長

五十四回生 大石 浩

東海支部のみなさん、こんにちは。香川支部の大石と申します。

二〇〇四年七月より事務局を担当しております。どうぞよろしく願います。

さて、平成十六年度の香川支部総会は、例年どおり七夕総会と称して七月第一土曜日の七月三日に開催しました。当日は、母校から浜田教頭先生をはじめ、同窓会本部、各支部役員の皆さんにご出席をいただきました。東海支部からは竹原顧問にご出席いただきました。ご多忙の中、また遠路を本当にありがとうございました。

本年度の支部総会の会場は、JR高松駅・高松港周辺の再開発地区《サンポート高松》にあるシンボルタワー十七階に変わりました。昔話に



なりませんが、東京や大阪から  
国鉄で高知へ帰る時には、宇  
高連絡船のデッキで讃岐うど  
んをすすりながら高松港を目  
指し、接岸するやいなや土讃  
線の急行列車に向かって陸橋  
・ホームを疾走したもので  
す。現在では瀬戸大橋の開通  
により、岡山から高知へ特急  
が直結し、陸路もずいぶん楽  
になりました。いまや高松駅  
周辺は、宇高連絡線の枝橋も  
姿を消し、モダンな新高松駅  
とシンボルタワーやシティホ  
テルなどが立ち並ぶウォータ  
ーフロントの洒落たエリアに  
生まれ変わっています。

総会当日は、九回生の大先  
輩から七十一回生まで五十名  
をこえる仲間が集まり、例年  
にも増して大変盛り上がりま  
した。特に若手メンバーが大  
くさん集まり、大いに盛り上  
げてくれたのは嬉しい限りで  
す。またお天気にも恵まれ、  
開宴後しばらくするとシンボ  
ルタワーの十七階の会場から  
は素晴らしい瀬戸の夕景を望  
むことができましたが、その  
頃になりますと大半のメンバ

ーは窓外の景色はそっちのけ  
で、お猪口片手に昔話に没頭  
しておりました。事務局の予  
想どおり(?)の展開となった  
次第です。

四国の景気は、まだまだと  
いったところですが、名古屋  
は早くから大変元気がいいよ  
うですね。また今年は、中部  
国際空港の開港や愛知万博の  
開催などビッグ・イベントが  
目白押しで、ますます活気溢  
れる一年になることとてしよ  
う。昨年は、度重なる台風の  
襲来や思いもかけない震災な  
どが続きましたが、今年はい  
名古屋を中心に、《元気の素》  
が全国に広がっていったほし  
いものです。

最後になりましたが、東海  
支部のみなさんのますますの  
ご発展・ご健勝をお祈りいた  
します。

## 関東支部だより

支部長

二十九回生 泉谷 良彦

二〇〇四年六月、宮地先輩  
の後任として関東支部長を拝  
命しました二十九回生の泉谷  
です。

東海支部の皆様、それぞれ  
に御活躍のこととお慶び申し  
上げます。

今年名古屋・中京の年と  
言えるのではと思います。中  
部国際空港《セントレア》の  
開港や愛・地球博の開催と慶  
事続きであるし、これにドラ  
ゴンズが連続優勝でもすれ  
ば、大騒ぎとなるでしょう。

中京地区は歴史上に信長・  
秀吉・家康と三人の天下人を  
輩出して、尊敬に値する地域  
ですが、最近までは東京と大  
阪の間で《大いなる田舎》等  
と揶揄されてきました。しか  
し今や《トヨタ自動車》を筆  
頭に世界企業を生み出し、関  
西経済を凌ぐ勢いを見せてい



ます。味噌カツや天ムスが全  
国区になっっています。一存在  
感が希薄だったものが確固た  
る地位を築きつつあるのは保  
守的で堅実な土地柄にある一  
と日経の春秋子も言っていま  
す。

私の会社時代でも名古屋転  
勤を命じられた者は、チョッ  
ト嫌な顔をして「頑張つてき  
ます」と言うのが常でした。  
名古屋の商売は保守的なため  
例えば 松坂屋・中部電力・



東海銀行（現UFJ銀行）等の人脈が無いと厳しいとか、ヨソ者は入れてくれないとか、先入観が先行して自らを縛っていたように思います。人生至るところ青山ありと言ふ気持ちで、接すれば物事は展開出来ると思います。

また名古屋は芸事の盛んな文化都市でもあります。特に小唄は流派もたくさんあり、誰でも一つや二つ唸る？のは常識のようです。長唄や日本舞踊までいくと本格派で、身代を潰さないように願います。

さて関東支部は《5》の回生が幹事当番で五月二十八日の総会に向けて準備を進めております。支部のホームページのアクセスも六万五千回（二月末）を超えました。皆様にも御縁のある四十一回生の筒井康賢君の尽力もあり、ますます充実しております。筆山会・一本会・ハチキン会・アンダー七十回生の会等々それぞれの場合も活発に情報交換や懇談を続けております。今年も百名近くの新人を

迎え支部の活力になることを期待しております。

母校は新校舎建設に向けて池上校長を中心に検討が行われています。同窓会各支部が如何にして意義のある協力が出来るのか、大きな課題を与えられています。厳しい環境の中、お互いに切磋琢磨して二十一世紀に飛躍出来るように努力して参りたいと思います。



centair

こころときめくエアシティ中部国際空港  
2005. 2. 17 開港

## 広島支部だより

幹事

三十七回生 小島 康

気象庁の桜の開花予想は、高知三月二十五日、名古屋・広島三十一日と発表されましたが、きょう十四日は、風花舞うお寒い一日でした。東海支部の皆様にはお元氣にお過ごしでしょうか。

民間会社による初の国際空港。（ユニバーサルデザイン）の徹底。安い着陸料。乗り継ぎの利便性など、謳い文句の多い中部国際空港開港。物議をかもした南セントレア市騒動。愛知万博と話題満載の愛知に比べ、広島は、全国向けの大型ニュースはありません。カーブ募金の募金高とか、カーブ預金は十倍の利率とか、新球場建設は、公設民営方式が有力とか、話題はやはり、カーブカーブです。その陰で、フラワーフェスティバルの実行委員会始動のニュ

ースがちらり。

さてここで、平成十六年十一月六日に開催されました広島支部総会のご報告をさせていただきます。当支部総会は、支部議事・講演・集合写真撮影・懇親会・二次会と進行します。母校・本部・各支部からご来賓をお迎えして、母校新校舎建設事業計画のご説明と、それに伴う募金協力要請、各支部の支部報告をお聞きしました。

今年の講師は関東支部三十七回生幸徳正夫様。（笑門来福一言葉は力）と題して講演して頂きました。土佐高は私のブランド、ただ有り難きかな。大は中の、小は小の役割。洪柿の洪は、そのまま甘味になる。私の無駄に過ごした一日は、きのう死んだ人が、生きたいと痛切に思った一日。人生はへの字坂（下り坂が多い）。笑いとユーモアたつぷりの幸福節で、ご専門の税のおはなしと人情の機微のあれこれを、おはなししてくださいました。そろそろ錆びつき始めた感情が揺

さぶられ、あつという間の一時間でした。

懇親会は奥様ご同伴の参加が二組あり、また少人数ならではのアットホームな雰囲気、和気藹々のうちに終了しました。

二次会は歌う人は誰もいないのにカラオケルームで、懐かしいおはなし、ご専門のおはなしなどためになりました。

翌七日はオブションツアーで、江田島の旧海軍兵学校、現海上自衛隊第一術科学校を見学しました。自らを犠牲にして、国のために散って逝った若き特攻隊員の遺書は、涙なくして見ることはできません。自己・家族・国家の現在のあり方を真剣に省みるよすがとなりました。

特筆すべきは、東京在住の広島支部名誉会員の竹村照雄様（二十回生）が、かくしゃくたるお姿を見せてくださったことです。広島支部会員にとりましては嬉しく、今後の励みになりました。

母校のますますの発展に、

微力ながらもお役に立てるよう努力し、また各支部との親睦交流を深め、皆様にくつろいでいただける支部総会を目指します。広島支部をどうかよろしくお願い申しあげます。



### われらわかしゃち

## 西峯隆博先生の 還暦祝

五十二回生 清谷 知郎

平成十七年二月五日の夕方、西峯隆博先生の「還暦を祝い、教え子六十七、八名が

サンライズホテルに集まった。

先生が主任を務められた49回N・52回N・55回N・58回Kの四つのホームと、顧問をしておられた応援部OB・OGがあちこちから参加する。

発起人は（北の国の將軍様）そつくりの49回生・小原長生先生である。

準備や運営に心を砕いて頂いたのは49回生の古谷博さん・小林彰さん・52回生の浜田けいさん・58回生の千頭裕君といった方々であった。

出席者の内訳は、私のようにNホームで応援部出身という重複した者も数名いるが、49回と52回が二十数名、58回と応援部がそれぞれ二桁ずつ。

55回が少し淋しく二名だったのが、山本紳君（Sホーム）は応援部OBで明大応援団長も務めた男なので、私が尾道まで電話をかけて、

「来い。これは命令だ」と誘ったら、遠路はるばるや

つて来てくれた。

《猫の首に鈴》じゃないが、

《誰が先生に赤いチャンチャンコを着せるか》でひと採め。

結局、応援部の先輩の前田賢さん（Hホーム）と橋本雅彦さん（Sホーム）の49回コンビが大役を果たして下さる。

しかし、似合わない！  
西峯先生は白髪も少なく、

若々しいままなので、赤いチャンチャンコが実に似合わない。

それでも和奥様とお二人で壇上に登られて、満面の笑み。

言い出しつべの《キム・オハラ・ジョニル氏》のスピーチで会場が沸き、記念品贈呈では女性陣の「あいさつで和み、同期の東大助教授が、

「今でも先生からのお電話では緊張します」と笑わせる。

乾杯が終われば、あとはもう《土佐流》で、早く酔ったもんの勝ちである。

記念品の高級一眼レフを手にも、西峯先生が各テーブルを回ってこられた。

応援部のテーブルでは、三十年近く前の甲子園での思い出話に花が咲き、

「合宿中になんと先生の逆鱗に触れて怒鳴られたことか」と遠くを見る目。

「子どもも土佐に入れて、西峯先生に厳しくご指導頂いた」

という奴も少なくないのだ。52回生のテーブルに行く

「どうしたんだ、その腹は！ 臨月か？」

「お前こそ深くツラをかぶれよ」

などという会話が。五十九人の級友のうち二人は他界してしまっただが、なんと二十三人が出席しており、女子は十一人のうち六人と過半数が参加。

埼玉から、山梨から、千葉から、宿毛からと結構遠くからも出てきており、

「これも西峯先生のお人柄か」と呟く。

《大同窓会》の様相を呈しており、著も杯も進む。「ご夫妻のお礼の言葉が始ま

り、会場は静かになった。

先生は、「体調が芳しくない時も多かったけど、たくさんの教え子が医者になっており、たいへん心強かった」

とのこと。奥様は、「このムツカシイ人をこんな

に温かく支えてくださって感謝しております」としみじみと話しておられた。

お姑さんが、「本当によう世話してもらった」とご自分の着物をブレゼントしてくださったのだそう。

「今日は義母の着物で出席させて頂きました」としみじみ。

青春時代のいろんな日々が脳裏に甦ってきて、ホロ苦しいビールを飲ませてもらった。

キリンビールに勤めている52回生の天造豊彦君からのお願いを、古谷さんが聞いてくださり、ラガーがずらりと並ぶ。ジャンジャン呑み倒す。

宴も半ばで、「キリンは全部飲んでしまった」との報告

を受け、ライバル社のビールに切り替えるが、勢いは止まらず。

「では応援部有志にラストを締めくくってもらいましょうか」

の声に押されて十数名が壇上に並ぶ。

「遠来の山本紳君が一発、をブチかました。」

「還暦といわず、百歳でも二百歳でも、先生の祝宴に再び三たび集まるうではないか」

「ソウダー！」

最高潮に盛り上がったところで私の番が来た。

「万が一、この夏に母校が大阪明徳に負けるようなことがあつたら、私はこのヒゲを割り落とすぞー！」

土佐高と西峯先生にエールを送らせて頂いたあと、

「おい、橋本よ、三三七拍子だ」

先生が直々にご指名された。脳梗塞を克服された先輩の元気な《突き三三七拍子》を後ろから見ながら、胸の奥が熱くなってくる。

「この続きは夏に必ず、な」

「甲子園のアルプス席で延長戦をやるがぜよ！」

今夏の再会を誓い、夜の街へと消えていく仲間を見送りながら、

「いい青春時代を過ごさせてもらったなあ」と夜空の星を見上げていた。



平成十七年二月五日



## 土佐中・高等学校同窓会東海支部

### 2004年総会以降のサマリー

東海支部幹事長 41回生 村山 文世

土佐中・高等学校東海支部同窓会の会員のみなさん。お元気ですか？セントレア（中部国際空港）も開港、愛・地球博も開幕し、いよいよ東海が世界に飛躍する年になりました。

昨年5月22日の総会で神宮事務局長と共に幹事長の役を仰せつかり、その後ヨタヨタしながら歩んだ軌跡を振り返ってみました。総会後の各支部、本部総会の出席、会報への投稿も順調にこなし、支部2番目の行事である暮れの懇親会の準備にとりかかりました。

- 1) 南顧問のリッチなオフィスで引継ぎの講義と懇親会の準備も今はあまり記憶になく、ただ土佐高校野球部の四国大会2回戦での西条高校との試合経過が、関東支部鶴和副幹事長から携帯に送られて来る度に一喜一憂。雨でノーゲームも翌日は神風がふかず残念無念の思いが残っています。昨年3月18日に41回生三宅君の尽力により、慶応義塾高校野球部を土佐高校に招待しました。そのメンバーが今年春のセンバツに45年ぶりに出場します。土佐高校もきっと明德義塾に勝って、多くの全国ファンが待ち焦がれている甲子園に帰る日も近いと、最近確信するようになりました。
- 2) 12月4日の東海支部懇親会は22回生水谷先輩以下20数名余が集い、名古屋駅“いわ園”で盛大に開催しました。とりわけ74回生小林愛さんをはじめとする、東海支部“はちきん”の皆さんの元気さ一杯あふれました。
- 3) 1月15日には、東海支部ホームページ編集人の41回生筒井君の指導により、山崎君の“幹事のつぶやき帖”もホームページに加わりました。来年はひょっとして事務局長の“マドンナのささやき帖”がアップされるかもしれません！
- 4) 2005年1月22日に名古屋・池下の愛知厚生年金会館で、橋本大二郎高知県知事を始め、多くのご来賓の出席を仰ぎ開催された、中部高知県人会定期総会並びに懇親会には支部の会員も、19回生窪田大先輩はじめ、福永、大高坂、久保地、南の諸先輩方、筒井、山崎、上治(ユズボンの馬路村村長)、天造、尾崎(名古屋高知県事務所長)、瀬沼……結構多くのお見慣れた方々が出席して、中部高知県人会を盛り立てました。
- 5) 昨年6月から南顧問の呼びかけで始まった“二水会”も名古屋上前津“海舟”で高知からの清谷君の飛び入りがあったり、順調に回を重ねております。



その他まだまだたくさんの事が一杯ありました。これからも微力ではありますが、楽しい東海支部を続けますのでよろしく願います。

われらのホームページは  
<http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/>です。  
たまにはチラッと覗いてください。

神宮・山崎・筒井



東海支部懇親会での  
女性六人衆

centair



久保洋子  
内田順子  
小林 愛  
神宮美恵子  
高橋佐代子  
久保徳子

土佐中・高同窓会  
東海支部役員

(平成17年5月現在)

顧問	窪田 善一 (19回)
	水谷 昭 (22回)
	福永 康身 (28回)
	大高坂秀雄 (31回)
	下山 貢男 (32回)
	竹原 泰明 (36回)
	南 毅一 (37回)
相談役	松崎 正雄 (28回)
支部長	久保地理介 (33回)
幹事長	村山 文世 (41回)
副幹事長	天造 豊彦 (52回)
幹事	内田 順子 (35回) 編集長
	森 正博 (38回)
	山崎 博司 (44回) 会計
	楠 正隆 (49回)
	瀬沼 憲司 (64回)
	小林 愛 (74回)
事務局長	神宮美恵子 (44回)
会計監査	二神 良太 (33回)



南 毅一 顧問  
神宮美恵子 事務局長  
山崎博司 幹事

編集後記 たのや・ん?

10号『わかしゃち』お待たせしました。

2005年3月から9月まで、愛知県長久手町・瀬戸市などを会場に、『愛・地球博』が開かれています。リニアモーターカー・リニモが無人運転をしています。中部国際空港セントレアが開港され、見物客が押し寄せました。ささしまサテライト会場なども賑わって、東海支部エリアは、活気づいています。(内田順子)